

寄付御礼  
いぶきファミリー会費を含みます

いぶきはともに  
向き合い続けます  
IBUKI  
○○

いぶき福祉会は30周年を迎えます



# 夢よ もっと ひろがれ

vol.213  
いぶきファミリー  
会報誌

2024  
めぶき

先日、JR岐阜駅北口1階を入ったところ  
すぐにある、ベルマート・キオスクとい  
う小規模のコンビニの中から、2羽のカ  
ラスが出てくるのに出会いました。  
岐阜駅前には常にカラスがいるので  
が、なんとそのカラスたちは、口にスナッ  
ク菓子のようなものを各々くわえてて  
います。皆さんその場に居合わせたらど  
うしますか？当然お金は払っていない  
し、話しかけても答ええないし、捕まえよう  
とすると逃げて飛んでいくし、周りの人  
は笑ってみているだけです。カラスって  
頭いいですね。ゴミあさりは一羽がネッ  
トを持ち上げ、もう一羽が突っついて袋  
を破るとかしますし。固い木の実には車に  
ひかせて実だけ食べるなど、社会のイン  
フラを上手に利用し、都会での暮らしを  
満喫しています。人類滅亡のストーリー  
は、全面核戦争の勃発、ワクチンの利かな  
い強力ウィルスの大流行、小惑星の衝突  
など様々言われますが、もしカラスが異  
常発生して今の1000倍ぐらいの規  
模になれば、もう人類の知恵を結集して  
も歯が立たないであろうと、そんな思い  
を抱かされる風景でした。

## kinpa ginpa 金波 銀波 no.5 はやしもりお

無認可の共同作業所時代から、  
いぶきで働いていました。  
[金波銀波]は、高校時代、学校新  
聞に書いていたコラムの名称で  
す。いぶきの行く先が、穏やかな  
航海であるように祈りを込めて！

編集委員  
です

わたしたちがつくっています



藤澤秀人 初瀬尾久美子 池田光巳 藤澤亮太 川瀬悟 山本昇平 山本友美 北川雄史 森洋三

感想とふちっこメンバー  
投稿募集！  
みなさまのご意見やご感想、みんなの掲示板  
『ふちメン』への投稿お待ちしております。

夢よもっとひろがれ vol.213 めぶき  
2024年4月発行  
発行・編集：社会福祉法人いぶき福祉会  
〒502-0907 岐阜市島新町5番9号  
TEL: 058-233-7445  
メール: ibuki.m@ibuki-komado.com  
法人サイト: https://ibuki-komado.com



Illustration by Risa Miyawaki





## もくじ

- p3 はじめに
- p4-6 仲間のすがた
- p7 連載：恩田聖敬が愛を語る
- p8-9 わたしと息子といぶきと
- p10-11 いぶきのもものづくりストーリー  
「ボケのーと」の物語
- p12-13 協働プロジェクト「平塚弥生さん×いぶき」
- p14-15 情報掲示板
- p16 寄付御礼・金波銀波

紙面のフチ、みんなのスペース『ふちっこメンバーズ』は、読者の皆さまよりいただいた投稿を掲載しています。  
★投稿は裏面のQRよりお待ちしております♪



## 作者の紹介

夢よ  
もっと  
ひろがれ

表紙の  
タイトル  
白木祐さん

表紙の  
イラスト  
宮脇理紗  
さん



今年の桜は日本各地で一斉に満開を迎えたような印象です。それだけたくさんの人と一緒に味わえたと思うと喜びも倍増します。

「今度お話会（おはなしかい）しませんか？」

「いぶきにいらっしゃいませんか？」

昨秋深まった頃から、ふと出会ったり電話でお話した時に、そんなお声かけをするようになりました。

ただ会っておしゃべりする。

お互いの日常の交換をする。

「こうでなければいけない」ことからほんの少し解放される時間をすごしあう。

そこから未来の物語がうまれたりするかもしれません。

いぶきのコミュニティがそんな役割も果たせればこんな嬉しいことはありません。

5月の連休明けからJDF（日本障害フォーラム）能登半島地震支援活動が始まります。

いぶきから七尾までたった3時間半。微力ですが現地派遣も含め被災地のみなさんに私たちができることを丁寧に続けていきます。

心を寄せ続けること、ご一緒いただければ幸いです。

法人本部 北川 雄史



Illustration by Yuma Sawai



西部事業部 金子 彰子

## 旅行で深めた仲間の絆



野間崎灯台にて



左から正木さん、伊藤さん、私、都築さん



カブトビールでかんぱい!

だいふくホームの竹中均さんは、初夏が来ると「りょこう!りょこう!」と言い出すのが常でした。コロナ禍での制限が緩和されてから、足湯に行き、喜ぶ姿を見せましたが、後年、足を痛め、歩行が回復しないためか「りょこう」という言葉を口にしなくなりました。

いぶきが小規模作業所の頃から、竹中さんと一緒だった伊藤強志さんは、竹中さんや幼馴染の都築さんと旅行に行くことを、楽しみにしていました。旅行の話になると「行きてえなあ」とボソツというのが常でした。

そんな伊藤さんが、子どもの頃から今までの写真を収めたアルバムを、家から持ってきて見せてくれました。伊藤さんの生後すぐは、身体の弱さを、家族は心配していたそうです。1歳の時の写真は、御嶽山山頂で撮られていました。3歳の写真は金華山で。どちらも強く育てほしいという家族の願いが伝わってくる写真です。修学旅行写真は、1964年の東京オリンピックで、あどけない都築さんも写っています。写真を見ながら、伊藤さんと話をすると、都築さんは、同じ時代を過ごした大切な友達だと思っているこ

とが、分かりました。

伊藤さんがアルバムを持ってきたのは、北名古屋市の昭和日常博物館へ、伊藤さんと都築さん、養護学校時代の後輩で、しまホームの正木さんと出かけたことがきっかけでした。

ホームの外出は、普段はホーム全員で出かけます。70代の仲間にとって、若い仲間との外出は、活気も出て良い影響もありますが、同じ活動では体力がついていかず、つらそうな時もあります。年齢に応じた活動を用意できないか?ということから同世代のお出かけを計画しました。昭和日常博物館は、建物の中に1950年代の町並が再現されています。オート三輪に懐かしい!と声をあげ、タバコ屋の店先を見て「いこいだ!ようお父さんに頼まれて買いに行った」「うちはピースだったな」と、話が弾みました。

帰り道、普段は物静かな伊藤さんが饒舌になり、次は皆で刺身が食べたいね!と提案すると、二人でビールを飲もうね!と正木さんが返し、都築さんは、イルカが見たいね!と主張するなど、話は尽きません。

その後、伊藤さんは、前述のアルバムを

みんなの  
スペース  
メフチっ  
バーズ



『お肉/本集市』ちっちゃな見栄、いぶきのかりんとうを字々々と買つて、「一緒に食べました。お父さん、美味しいの作るね」「すこいだろう?」「こめんよ、作ってるのは他の仲間なんだよ、見栄はこつてすんません。」





すてきですね、皆さんの笑顔



灯台の「絆の鐘」を鳴らしました

みせてくれ、海が好き、とも教えてくれました。実際の旅行は、まだ先かなと思っていましたが、伊藤さんは、加齢から来る不調が頻繁でした。もっと体力が落ちたら、望みはかなえられるのだろうか？という懸念がありました。

そこで、海に行きたい希望と、安心して滞在ができる場所を探すと、サポートイン南知多という旅館が見つかりました。全館バリアフリーで廊下と部屋に段差はなく、リフト付きのジェットバスがあり、和室でも介護ベッドを入れられるとのことでした。食事形態も刻み、ペーストと希望に合わせて提供してもらえます。

そんな場所があるのなら、高齢の仲間が、旅を楽しむ元気があるうちに実現しては、となり晩秋、同年代3人組で知多の海に出かけました。

かかりつけの医師にOKをもらい、一日目はビールの飲めるピアシティ南知多で昼食。伊藤さんは、正木さんと嬉しそうに乾杯していました。ゆっくり食事をした後、晴天にくっきりと白い野間崎灯台に行き、海辺を歩きました。

夕食では、伊藤さん待望の刺身を食べ、日本酒もたしなみ、都築さんが今日見た

灯台を絵に描きたいと言うのを、面白そうに聞いていました。夕食後、旅館の方からリフトやジェットバスの丁寧な説明を聞き、伊藤さんは笑顔で入浴したそうです。二日目は、ビーチランドでイルカのショーを観覧。ここでは都築さんが一番エンジョイ！していました。帰りの車は、今度はもっと刺身が食べたい、ホームの皆も連れてきたいと、次の話で大盛り上がりでした。

旅行後、正木さんから「本当にとてもいい思い出ができました。そして旅館もサポートがよかったですね。またこんな旅行ができるといいですね」と感想をもらいました。

伊藤さんからは「また都築さんと旅行に行きたい。ホームのおじさんやおばさん、部屋の人々にお土産をあげたい」と次の機会を楽しみにしている言葉が聞けました。都築さんも、野間崎灯台と抜けるような空を絵に描いてみせてくれました。

竹中さんに、伊藤さんが「また、均くんも行こうね」とお土産を渡していました。それは、竹中さんに「りょうこ」をあきらめなくてもいいんだよ、と優しく伝えてあげているかのような光景でした。

# 心のバリアフリー ナビゲーター 恩田聖敬が 愛を語る！

vol.11 サービス業愛



恩田聖敬(おんださとし)1978年生まれ。岐阜県高富町出身。京都大学大学院航空宇宙工学専攻修了。Jリーグ・FC岐阜の社長に35歳で就任。現場主義を掲げチーム再建に尽力。就任と同時期にALS発症、2015年末に辞任。翌年、『ALSでも自分らしく生きる』をモットーに(株)まんまる笑店を設立。講演、研修、執筆等を全国で行う。2018年8月に、気管切開をして人工呼吸器ユーザーとなる。2児の父。2022年日本ALS協会会長就任。



BLOG



FB

この4月でサービス業を志して新卒として働き始めて丸20年となりました。早いものでFC岐阜社長就任から10年も経ってしまいました。ALSを罹患して動けなくなり、喋れなくなり、けれども私は変わらず株式会社まんまる笑店の代表取締役社長としてサービス業をずっと続けています。われながらサービス業への執着がすごいです。ちょっとその背景を書きます。

私は京都大学の航空宇宙工学の大学院を修了しています。修士論文のタイトルは「極希薄空間における平行二次元無限平板の振動により生じる非線形音響流の極致的挙動」的なニュアンスだったと思います。なんのこっちゃと思われる方が大半だと思いますが、要は宇宙では音波(波)は地上とは別の挙動をして最後にどうなるかが焦点です。テーマとしては興味深いです。

けれども実際にやることは一万行に及ぶ膨大な数値シミュレーションプログラムを書いて、当時パソコン20台くらいを使ってパラメータを変えてひたすら計算させて、データ解析するという行為でした。パラメータによっては一ヶ月かかる計算もありました。なかなかシミュレーションがうまくいかず、年越しも研究室で一人で過ぎしました。人生において一番しんどい時間だったと言っても過言で

はありません。

そして私は気がつきます。「学問への知的好奇心は十分あるけれど、自分の手で解き明かしたいという研究者スピリットは私にはない」ということに。またそれまで好きなことだけして生きてきた身としては、嫌いなことをやらざるを得ない状況はかくもつらいのかと思い知りました。私にとってひたすらパソコンに向かうのは地獄の所業でした。

そんなわけで、私は学校推薦の一流企業と呼ばれる会社には目もくれずサービス業のベンチャー企業に絞って就活をしました。私はパソコンではなく人を笑顔にしたいのです。名もなきベンチャー企業に就職すると担当教官に伝えた時の反応が今も忘れられません。彼は「なんちゅうもったいないことを…おまえは社会をわかってない!」と私に言い放ちました。彼の常識とはあまりにかけ離れていたのでしょう。彼とは卒業以来会っていません。修士論文も手元にはなく、全てのデータは研究室に置いてきました。その後サービス業と経営者を嫌というほど経験して、Jリーグ史上最年少社長にもなりました。社会をわかっていないのはどっちだったでしょう(笑)

私は一生サービス業に携わります。



# ※ シリーズ ※ わたしと息子といぶきと

いぶきに通う仲間の親さんの手記。わが子の生い立ち、  
これまでのことを振り返って、エピソードや自身の想いを綴っていただきます。

矢川 和弘(矢川 典さん父)

息子が生まれたのは、今から27年前、妻と長男とともに名古屋の社宅で暮らしていた時のことでした。



生まれたころ。大好きなお兄ちゃんと

妻が入院していた産科病院からそろそろ出産準備に入るとの連絡を受け病院に駆けつけると既に息子は生まれていました。私は保育室で眠っている息子を見た瞬間、この後に告げられる「障害」のことを予見していたかのような、何とも表現しがたい漠然とした不安感のようなものを抱いたのを覚えています。

看護師さんに促され、生まれたばかりの息子を抱かせてもらっていると、主治医から「お父さん、少しお話が・・・」と声を掛け

られ、診察室に案内されました。

主治医は、深刻そうな固い面持ちで、「精密な検査をしてみないと軽々に申し上げられません、おそらく息子さんは、ダウン症ではないかと思われます」と告げられました。「ダウン症？」私自身、初めて聞く言葉でしたが、主治医の表情から大変なことが起きているのだと容易に察することができました。さらに主治医からは、「奥様に伝える時期の判断は、ご主人にお任せしますが、少なくとも退院まで伏せておかれることをお勧めします」との指導を受けました。この日から私はこの世のすべての災いを一人で背負ったかのような



沖縄へ修学旅行

重い憂鬱な日々を過ごすことになりました。検査結果が出るまでの2週間、私は主治医の見立てが間違いであることに一縷の望みを持ち、社宅の近くにあった熱田神宮を始めとした神社などへの神頼みが日課となっていました。それまで信仰心の欠片もなかった自身の、この時の「にわか信仰的行動」は、今となっては、家族の中では笑い話となっていますが、当時は藁をもつかむ思いでの行動だったと記憶しています。



家族でキャンプ

その後の息子との暮らしは、この当時の私の感情とは全く無縁のものとなり、むしろ、息子のゆっくりではあるが着実な成長は私たち家族に大きな喜びと幸せを与えてくれました。今となっては、当時私が抱いた不安感や憂鬱な感情は、「ダウン症」に関する知識がなかった故の「取り越し苦労だった」と言えます。今のところ、息子に合った環境で楽しく就業できていることや、さまざまな方面か



ハッピーすまいるフェスティバルを満喫

ら支援を受けられていることに対して感謝は止みません。

しかしながら、この後の私たち家族の生活が決して楽観視できるものではないことも理解しています。本人や家族も老いていき、私たちを取り巻く環境もどんどん変化して行くものと想像できます。その変化の時々、本人と家族の幸せのために最善の選択をしていかなければならないと身構えています、この今の感情もあの時と同じ「取り越し苦労」なのかもしれません・・・。



世界マーレードアワード金賞受賞

みんなの  
スペース  
メンバ  
ーズ



《はらみち／岐阜市》しよりよこにつてきました。べじようでさんぶるたいけんをしてきました。だのしんてきました。



# 「ポケのーと」の物語

やさしくて温かみのある特別な「のーと」のお話



## 「かみの縁」とは

第二いぶきの「こらぼ」でつくる手すき和紙のブランド。一部の仲間の療育活動のひとつとして牛乳パックを使用してはがきをつくることからスタート。その後、全員で紙すきに取り組むようになり、その位置づけは療育から仕事へと変わっていきました。たくさんの方との協働から美濃和紙を使った手すき和紙の商品が生まれました。ポケのーとのほかに、御朱印帳や、コースターなどをつくっています。

## 「ポケのーと」のはじまり

北部事業部 大堀 愛子

2014年、牛乳パックで作るはがきが時代の変化とともに売れなくなったころ。それでも仲間たちが真剣に仕事に向かう姿を見ながら、私たち職員も本気で商品開発に取り組むようになりました。そんなときに出会ったのが丸重製紙さんとデザイナーの山本愛子さんでした。丸重製紙さんには仲間と工場見学に行かせてもらったり、紙すきで困っていることを相談にのっていただいたり…それだけでなく、懐紙を作る際に出る和紙の端切れ（本来加工して再利用される大切なもの）を大きな袋いっぱいに譲っていただきました。いただいた和紙からどんな紙ができるだろう？折紙や押し花など様々な素材をまぜたり漉きこんだり、作り方を考えてみたり…仲間たちと研究

の日々が始まりました。とにかく面白そうなのを自由にみんなで作ってこうと試行錯誤を重ね、たくさんのサンプルができあがりました。それを山本さんに「いいね！これ面白い！」と絶賛してもらったのが百々染工房からわけてもらった草木染の布を混ぜ優しく色づけした一枚。新しい視点をいただきながら、紙の厚みをどうするか？どんな想いをのせたいか？何度もブラッシュアップを重ね、ようやくこれだと思える紙にたどりつくこ



初納品されたポケのーとを前に記念写真

とができました。山本さんから紹介いただいたマルタ工業さんに製本をお願いし、初めて納品された「ポケのーと」。机いっぱいに並んだ色とりどりのノートを前にみんなで喜び合ったあの日の感動を今でも忘れることができません。他にもたくさんの嬉しいご縁がありました。これからもわくわくしながらみんなでかみの縁を広げていきたいなと思います。



商品開発会議の様子

## 「ポケのーと」づくり

北部事業部 浅野由起

こらぼで「ポケのーと」を作る仲間は6名で、1つのテーブルを囲んで順番に工程を担当し、それぞれの得意な動きを生かして取り組んでいます。

- ①紙入れ→②水入れ→③のり入れ→
- ④ミキサー→⑤材料の注ぎ入れ→
- ⑥すき上げ→⑦水切り

と多くの工程を経てとポケのーとの表紙ができあがります。



真剣な表情で水入れ

腕を上げるだけでも困難な仲間もいるため、1つの工程に15分くらいかかることもあります。作業には仲間の得意な動きに合わせた自助具を使用しています。自助具を使用



よっこいしょでミキサー準備



かっこいい紙入れに思わず拍手

することで職員の力ではなく、仲間自身の力でやり切ることができます。しかし、いつでも思うように体が動くとは限りません。また、体調に左右されることの多いこらぼの仲間たちにとって昨日上手くできたことが今日はできなかったということも珍しくありません。そんな時に力となるのが他の仲間からの応援です。応援は声だけではなく、表情や視線など、様々な方法でエールを送ります。だからこそ、できたときの満足感や達成感は大いのだと考えています。最近は漉き上げた紙につける模様を仲間たちに決めてもらっています。これまでは在庫を見ながら職員が決めて型をつけていましたが、仲間が作り上げる商品なので最後まで任せことにしました。紙の色を見てじっくりと考えて選ぶ様子から、自分たちで作り上げた大切な紙と捉えているように感じられます。これからもみんなで丁寧な仕事を続けていきたいです。





ぎふNPOセンター2023孤独・孤立対策官民連携事業

## 岐阜の小さな隣人まつり

隣人祭りとは、地域の子どもからお年寄りまでが食事や飲み物を持ち寄り、語り合うフランス発祥のフランクなお祭りのことです。あるアパートで一人暮らしのおばあさんが孤独死をして1ヶ月後に見つかったことに、大きな衝撃を受けた住人たちが発起し、フランス全土、他の国々でも広がっていききました。



カレー鍋に日南子さんが玉ねぎを投入、翔子さんが焦げないようにしっかりと混ぜています。

## はじめての経験から あふれ出した仲間の“やりたい！”

西部事業部 二村 菜穂子

「♪にんじん〜玉ねぎ〜ジャガイモ〜豚肉〜お鍋で〜炒めて〜ぐつぐつ煮ましょ〜♪」森亜紗未さんと平塚さんがカレー鍋を混ぜながら「カレーライスの歌」を楽しそうに歌うおふたり。そして、カレー鍋の周りには、ご近所のひだまり創のみなさんや、いぶきのみんな…様々な人たちが、それぞれの思いで鍋を囲っています。時折、笑い声やガヤガヤと賑やかな話し声も聞こえてきて和やかな雰囲気の中行われた最終日の一コマ。

しかし、私はスタート時にはこんな素敵な場面を想像することは難しく、不安でいっぱいでした。なぜかという、私たちのグループは、自ら何かをやりたい！と主張できる仲間ばかりではなく、毎日ゆっくり、のんびりと散歩や創作活動など一人ひとりのペースに合わせた活動を行っているからです。「地域の方々をおもてなしする料理を作れるかな…？」と不安が大きくなるばかり

りでしたが、隣人まつりの準備でチラシ作りを進めていると、真剣に文字を書く姿や、楽しそうに色を塗る表情に、「私も楽しまなきゃ」と思えるようになっていました。

当日は私の心配をよそに、楽しくて自然と鼻歌が出る森さんや、いい匂いのする鍋を覗き込みに行く日南子さん。楽しい雰囲気の人の側へすり寄っていく三恵さん。仲間それぞれのスタイルで少しずつ関わりを持っていききました。



いぶき前で、完成したパエリアをみんなでもぐもぐ。



力作のチラシ!



はっきり主張することは難しい…と思っていたのは私の思い込み。仲間たちは各々「やりたい！」を行動や表情で発信してくれました。

そして、初めての経験が、またやりたいことに変わっていききました。初めてキノコを手に取りほぐしたこと。初めて包丁を握りアスパラを切ったこと。初めて平塚さんと一緒に料理を作ったこと。はじめて地域の方々と一緒にパエリアを食べたこと。そんな経験をして「私、キノコほぐしたい」「私、もっと食べたい」「鍋を見に行きたい」「楽しいこと好き」とどんどん積極的になっていきました。

賑やかな場所が苦手な仲間も、チラシ作りやお散歩ついでにポストイン。一人ひとり多様なカタチで地域の方との繋がりを持つことができました。食を通じて人と人との関係を育んでくれた平塚さんに感謝しています。



森さんとあさ美さんで、きのこをほぐしています

### coneru平塚弥生さんよりメッセージ

はじめはこわばっていた表情も、野菜に触れて、皮を剥き、刻み、鍋を囲む。そのゆるやかな空気が、香りを運びほぐれます。面が取れ柔らかく煮立ち、味が染みていく様は、様々な垣根を超え私たちも料理をされているような一体感になりました。

歌を歌う、チラシの絵を描く、モリモリ食べる姿を見せる。それらもおいしいスパイスとして加わり、仲間だけでなく、職員や地域の皆さんの何かが大きく変わったのではないのでしょうか。



みんなのスペース  
メッシュバーズ

《たのしいところみつ／岐阜市》子どもと柳ヶ瀬グランド35の4階にあるツナグテに行ってきた。広さや目を離したときにどこか行ってしまうという事のないほどよい広さのこの作業スペース。きちやう楽しい場所でした。ロープが天井に張ってあり寝転ぶと気持ちよかったです。おすすめですよ。

## 01 神谷はるみさんの猫の絵がチョコレートになりました！

岐阜県内の障がいのある作家の作品をチョコレートに！TASCぎふのtomoniプロジェクトに神谷はるみさんの作品が採用されました。パティシエの滝本シェフがつくるボンボンショコラの表面に作品がプリントされた「トモニショコラ」は、名古屋アムール・デュ・ショコラで販売されました。2月9日、古田知事への報告会では、神谷さんは「自分の描いたねこちゃんがチョコになってうれしい」と語りました。同時販売されたいぶきのかりんとうにチョコレートコーティングした「いぶきの枝」についても、知事に「とてもおいしいです」とおっしゃっていただきました。



## 02 TASCぎふコラガ展vol9「手と精神」

「手を動かすことが困難な人」を主役とした「手」をテーマとした展示会で、展示のために8月に第二いぶきの仲間と職員の手のスキャンや造形をとりました。初めてで不安でしたが、実際のスキャンした映像を見せていただくのは新鮮でワクワクするものでした。作品は2024年1～2月ぎふ清流文化プラザ1Fギャラリーで展示されました。展示を仲間と見に行き、自分たちの手に改めて出会う体験は面白かったです。



## 03 ぎふハッピーハッピープロジェクト※ 活動報告会

2024年3月8日（金）岐阜市のぎふメディアコスモスで2023年度の活動報告会を開催しました。3度目となる今年も柴橋正直・岐阜市長を来賓にむかえ、プロジェクトに参加する福祉団体、企業をはじめ、関心のある団体や市民の方々などおよそ40名が集いました。プロジェクトの調印式と寄付金の贈呈を行い、参加団体、企業がプロジェクトにかかる想いを語りました。この活動を通して、「ぎふをありがとうがあふれる街にしていくなコミュニティ」をこれからも育てていきたいと思います。



※参加企業と団体が社会課題に対する商品・サービスを開発しその資金の一部を寄付するプロジェクトです。

## 04 ねこの約束リノベプロジェクトクラウドファンディング終了。応援いただきありがとうございました！

2022年3月に閉店した岐阜駅のショップ「ねこの約束」を岐阜市日光町の家を改修して再出発することにしました。いぶきのものづくりに出会うだけでなく、多様な人が集いホッとできる場を作りたいという思いで、たくさんの方に呼びかけさせていただきました。お声掛けをすると、再開を歓迎する声や、ねこの約束の思い出をたくさん寄せていただき、とてもうれしい日々でした。最終的に目標を超えるご支援をいただきました。超えた金額につきましては店舗前の舗装費用に充てさせていただきます。改修やオープンのスケジュールや内容などはホームページにてお知らせいたします。あらためて、この度はご支援・ご協力いただきまして本当にありがとうございました。



募集期間 2024年1月25日～4月6日  
目標金額 300万円  
達成金額 3,494,000円  
支援者数 275人



プロジェクトページ

## 05 いぶきファミリー会員(個人・法人)募集と、更新のおねがい

寄付や会費がいぶきの活動の推進力になります。継続的に応援していただけませんか？

寄付・遺贈寄付のご相談は、お電話ください 058-233-7445

| 種類 | 応援のカたち                      | お届け                     | お申込み方法                                     |
|----|-----------------------------|-------------------------|--------------------------------------------|
| 個人 | 共感やアクションで応援<br>(会費はいただきません) | 会報誌                     | お申込みはこちらから⇒                                |
|    | 月250円(年3,000円)              | 会報誌・年次報告書               | ①月払いは<br>こちらから⇒                            |
|    | 月500円(年6,000円)              |                         |                                            |
| 法人 | 月1,000円(年12,000円)           | 会報誌<br>年次報告書<br>オリジナル商品 | ②年払いの方は、郵便振替か銀行口座引き落としになります。ご希望の方はご一報ください。 |
|    | 月3,000円(年36,000円)           |                         |                                            |
|    | 月5,000円(年60,000円)           |                         |                                            |
|    | 月10,000円(年120,000円)         |                         |                                            |

### 税額控除対象法人となりました

このたび社会福祉法人いぶき福祉会は2023年3月16日に税額控除対象法人になりました。これにともない、同日以降のいぶき福祉会へのご寄付(いぶきファミリー会費も寄付と同様の扱いとなります)は、税制上の優遇措置として、所得控除と税額控除を選択できるようになります。なお、控除を受けるためには確定申告が必要です。所得などご本人の状況により異なりますので、詳しくは最寄りの税務署へお問い合わせください。